



川口の教育



(オンライン始業式 9月1日(水) 在家小学校)

第628号

【目次】

指導の手引き 「コロナ禍における学校の児童虐待防止に向けた取組について」	
川口市教育局学校教育部指導課 指導主事 中山 直紀	・・・・・・・・(2)
教育ルポ①②	・・・・・・・・(3)~(4)
令和3年度 関東中学校体育大会 出場校(選手)結果	・・・・・・・・(5)~(6)
令和3年度 全国中学校体育大会 出場校(選手)結果	・・・・・・・・(7)
教職員 MOTTO(モットー)	・・・・・・・・(8)

題 字 川口市教育委員会教育長 茂 呂 修 平

9 月号

—令和3年—

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための自粛生活が長引く中、生活不安等の親のストレスが子どもに向くことによって、児童虐待のリスクが高まることが懸念されている。(2020年度は、18歳未満の子どもへの虐待件数が初めて20万件を超えた。)

また、過去の緊急事態宣言下においては、相談件数増加のペースが鈍化する傾向にあり、家庭という閉鎖的な環境で虐待が発見しづらくなる危険性も指摘されている。

2 「児童虐待防止法」が規定する学校等の役割

【第5条第1項】

学校・教育委員会、学校の教職員は、虐待を発見しやすい立場にあることを自覚し、早期発見に努めなければならない。

【第6条】

虐待を受けたと思われる子供を発見した者は、市町村や児童相談所に通告しなければならない。

【第5条第2項】

虐待の予防・防止や虐待を受けた子供の保護・自立支援に関し、関係機関に協力するよう努めなければならない。

【第5条第5項】

子供等への虐待防止のための教育又は啓発に努めなければならない。

3 虐待の要因

虐待は、親の要因が全てではなく、子どもの要因、家族をとりまく要因等、様々である。

また、虐待する親の大半は、ひとりで苦しみ、悩み続けたその結果、子どもへの虐待を行ってしまう現状もあることから、親を責めず、支援するスタンスが大切である。



<出典>

子どもの虐待はどうして起こるの？(子育て支援情報未来っ子ひろば)

4 多くの子どもや保護者と関わる“学校”だからこそできること

(1) 日々の教育活動を通じた早期発見や声かけ

学校の教職員は、いつもと違う様子や言動などから早期発見に努める。また、保護者への声かけや日頃のつながりが、保護者の安心感に繋がる。

(2) 通告の判断にあたって

虐待の有無を判断するのは児童相談所等であることを踏まえ、学校として虐待の確証がなくても、保護者との関係より子どもの安全を優先して通告する。(結果として誤りでも責任は問われない。)

(3) 関係機関等との連携

学校は、日頃から児童相談所の安全確認や情報収集への協力を行ったり、要保護児童対策地域協議会の求めに応じて協力したりする等、関係機関との一層の連携・協力を図る。

(4) 一時保護時や一時保護解除後の対応

子どもが、一時保護された際は、児童相談所や一時保護所等と連携した学習機会の充実を図ったり、解除後もスムーズに学校復帰できるよう、関係機関との情報共有を継続したりすることが大切である。

また、SCやSSW等と連携し、専門的な知見からのアセスメント(見立て)を支援計画に生かす。

(5) 体罰等によらない子育ての推進

令和2年4月の児童虐待防止法等改正法の施行(親権者等による体罰の禁止)を踏まえ、体罰等によらない子育て(子どもの権利を含む)について、学校だよりや保護者会等を通じて、周知・啓発を行う。

5 おわりに

自粛生活等が継続する中で、児童虐待が潜在化し、そのリスクが高まっている。

したがって、学校の教職員には、これまでの取組に加え、地域とのネットワークを総動員して、苦しんでいる親や子どもを早期に発見・対応していただきたい。

また、支援ニーズの高い子ども等を定期的に見守る体制の確立を図っていただきたい。

6 参考資料

- ・学校・教育委員会等向け虐待対応の手引き [文科省]
- ・学校現場における虐待防止に関する研修教材(令和2年1月) [文科省]
- ・令和3年度教育相談機関研修





【在家小学校】



◇ 2学期当初の様子①◇



◇ 2学期当初の様子②◇



◇ オンライン授業の様子①◇



◇ オンライン授業の様子②◇



◇ オンライン授業の様子③◇



◇ オンライン授業の様子④◇

【榛松中学校】



◇ 非行・薬物乱用防止教室 ◇

真剣に話を聞き、参加する
とができていますね。



◇ 交通安全教室 ◇





【南鳩ヶ谷小学校】



◇ オンライン授業の様子 ◇

【舟戸幼稚園】令和3年度～3歳児保育のスタート



上手に手洗いでしょ



おしたくも自分でできよ



みんなで一緒に「いただきます」



初めての絵の具遊び



積木やブロックで車のコースづくり



水鉄砲 楽しいな！



年長さんと一緒に魚つり



小学生のお兄さん、お姉さんから教えてもらったよ(手洗い、笹飾り)



令和3年度 関東中学校体育大会 出場校(選手) 結果

種目	男女	種別	学校名	選手名	成績	全国出場○
サッカー	男子	団体	西	松本 草太(3年) 夏川 颯(3年)	1回戦敗退	
				熊木 比呂(3年) 森岡 亮太(3年)		
				野澤 絢人(3年) 宮城 來隼(3年)		
				田中 悠真(3年) 宗像 大輝(3年)		
				沼澤 ありん(3年) 鴻巣 健太郎(3年)		
				大森 拓真(3年) 森 敦彦(3年)		
				徳永 伸哉(3年) 島田 泰知(2年)		
				小野寺 栄斗(2年) 林 夏輝(2年)		
				石田 藍(2年) 濱中 海里(2年)		
ソフトテニス	男子	団体	上青木	市村 大地(3年) 青木 晴弥(2年)	2回戦敗退	
				竹之内 琉汰(2年) 五十畑 暁斗(2年)		
				直井 一史(2年) 桐山 浩輔(2年)		
				舘田 陸斗(1年) 金内 綾汰(1年)		
		団体	芝東	赤沼 裕希(3年) 石田 輝(3年)	優勝	○
				野口 遼(3年) 小山 寛晴(3年)		
				児玉 涼太(2年) 守谷 麟(3年)		
		個人	上青木	齋藤 大貴(2年) 竹内 慶悟(2年)	2回戦敗退	
				青木 晴弥(2年) 市村 大地(3年)		
	個人	上青木	竹之内 琉汰(2年) 五十畑 暁斗(2年)	2回戦敗退		
			赤沼 裕希(3年) 石田 輝(3年)			
	個人	芝東	児玉 涼太(2年) 守谷 麟(3年)	5位	○	
野口 遼(3年) 小山 寛晴(3年)						
個人	芝東	野口 遼(3年) 小山 寛晴(3年)	1回戦敗退			
		齋藤 大貴(2年) 竹内 慶悟(2年)				
個人	芝東	齋藤 大貴(2年) 竹内 慶悟(2年)	2回戦敗退			
		脇谷 結楽(3年) 熊木 咲彩(3年)				
ハンドボール	男子	団体	戸塚	黒木 大雅(3年) 福田 友聖(3年)	ベスト8	○
				柴山 絆心(3年) 金子 晃太郎(3年)		
				細川 大颯(3年) 新山 朔也(3年)		
				増田 舜(3年) 小林 諒太郎(3年)		
				玉川 輝(2年) 長澤 正輝(2年)		
				納 碧斗(1年) 内海 珊(1年)		
				古谷 琉真(1年) 山下 凜久(1年)		
				鬼ヶー 蒼結(1年)		
				小林 嶺士(3年) 伊東 樹(3年)		
	岳本 昊樹(3年) 大崎 颯汰(3年)					
	白濱 創太郎(3年) 若松 蒼衣(3年)					
	大崎 佑也(3年) 小湊 陽(3年)					
	佐々木 幹太(2年) 李 倅輝(2年)					
	廣田 周士(2年) 大高 勇輝(2年)					
	鈴木 心(2年) 小池 悠太(1年)					
	末廣 優汰(1年)					
	女子	団体	戸塚西	山崎 莉子(3年) 北野 千晶(3年)	1回戦敗退	
				堀江 夏莉(2年) 池田 優衣(2年)		
永山 理実(2年) 石川 笑梨(2年)						
篠塚 詩菜(2年) 清水 莉子(2年)						
柳澤 莉々花(2年) 長岡 由真(1年)						
鈴木 陽菜(1年) 林 すみれ(1年)						
田村 優奈(1年) 朝倉 夢結(1年)						
谷口 瑚々葉(1年)						
割田 真優(3年) 吉野 沓(3年)						
新体操	女子	団体	芝西	三村 祐莉(2年) 佐藤 七海音(2年)	9位	
				佐藤 唯芽(2年) 吉野 晏(1年)		
				細川 夕月(1年)		
				梶山 結月(3年) 大塚 香音(3年)		
		団体	戸塚西	照内 実吹(3年) 宮本 紗衣(3年)	6位	
				安田 桃果(2年) 秋山 菜々美(1年)		
個人	芝西	三村 祐莉(2年)	19位			

令和3年度 関東中学校体育大会 出場校(選手) 結果

種目	男女	種別	学校名	選手名	成績	全国出場○
柔道	男子	団体	西	橋本 明日翔(3年) 種市 寿(3年)	1回戦敗退	
				三原 俊哉(3年) 宇井 悠葵(2年)		
				栗栖 秀忠(1年) 工藤 光翔(1年)		
				宇井 寛葵(1年)		
		-50kg級	安行	森田 結人(3年)	1回戦敗退	
		-60kg級	芝東	大平 哲見(3年)	3位	○
	-73kg級	上青木	吉村 颯太(3年)	5位	○	
	-81kg級	十二月田	立石 正宗(3年)	欠場		
	-90kg級	西	橋本 明日翔(3年)	1回戦敗退		
	女子	団体	西	工藤 笑心(3年) 原 波音(3年)	5位	○
				佐野 明日香(2年) 井田 実来(2年)		
		-44kg級	芝西	廣瀬 桃(2年)	3位	○
		-52kg級	上青木	倉持 美咲(3年)	1回戦敗退	
-57kg級		西	佐野 明日香(2年)	優勝	○	
-57kg級		西	井田 実来(2年)	準優勝		
-63kg級		西	工藤 笑心(3年)	優勝	○	
-70kg級	西	原 波音(3年)	3位	○		
剣道	女子	団体	岸川	土屋 悠菜(3年) 大島 逢珠(3年) 小陽 友里愛(3年) 本橋 心(2年) 和田 葉奈(2年) 秋山 優里(2年) 白石 舞依(1年)	予選リーグ敗退	
陸上	男子	3000m	芝東	小笠原 優諭(3年)	13位	○
	女子	800m	幸並	岡田 透桜子(3年)	4位	○
水泳	男子	100m 自由形	芝西	市川 亮太(3年)	17位	
		200m 自由形	芝西	市川 亮太(3年)	5位	
		400m 自由形	上青木	井上 丈瑠(2年)	15位	
		1500m 自由形	上青木	井上 丈瑠(2年)	4位	
		200m 背泳ぎ	元郷	植村 琉之介(3年)	14位	
		100m 平泳ぎ	神根	古挽 将矢(3年)	10位	
		400m フリーリレー	南	石塚 健介(3年) 石塚 大介(1年) 半田 航大(2年) 長田 哲通(1年) 久保 颯祐(2年) 南 利樹(2年)	15位	
	400m ムドレーリレー	南	久保 颯祐(2年) 石塚 大介(1年)	9位		
			石塚 健介(3年) 長田 哲通(1年) 半田 航大(2年) 永野 亮太郎(3年)			
	女子	200m 自由形	南	由本 紅葉	19位	
		200m 背泳ぎ	上青木	堀川 優月(2年)	26位	
		100m 平泳ぎ	神根	菅谷 真采(3年)	18位	
		200m 平泳ぎ	神根	菅谷 真采(3年)	19位	
200m バタフライ		里	松尾 芽衣(3年)	15位		
200m 個人メドレー		上青木	高山 紫妃(1年)	8位		
400m 個人メドレー	上青木	高山 紫妃(1年)	失格			
テニス	女子	団体	小谷場	鈴木 蒼波(3年) 前田 成美(3年) 岡田 華(3年) 杉崎 美音(3年) 高野 伽音(3年) 龍島 紗羅(3年) 古巣 真帆(2年) 米谷 葵(2年) 利岡 杏澄菜(2年) 扇本 紅那(1年)	1回戦敗退	

令和3年度 全国中学校体育大会 出場校(選手) 結果

種目	男女	種別	学校名	選手名	成績
ソフトテニス	男子	団体	芝東	赤沼 裕希(3年) 石田 輝(3年)	5位
				野口 遼(3年) 小山 寛晴(3年)	
				児玉 涼太(2年) 守谷 麟(3年)	
				齋藤 大貴(2年) 竹内 慶悟(2年)	
	女子	個人	芝東	赤沼 裕希(3年) 石田 輝(3年)	5位
			脇谷 結楽(3年) 熊木 咲彩(3年)	2回戦敗退	
ハンドボール	男子	団体	戸塚	黒木 大雅(3年) 福田 友聖(3年)	3位
				柴山 絆心(3年) 金子 晃太郎(3年)	
				細川 大颯(3年) 新山 朔也(3年)	
				増田 舜(3年) 小林 諒太郎(3年)	
				玉川 輝(2年) 長澤 正輝(2年)	
				納 碧斗(1年) 内海 珊(1年)	
				古谷 琉真(1年) 山下 凜久(1年)	
				鬼ヶヶ 蒼結(1年)	
柔道	男子	-60kg級	芝東	大平 哲見(3年)	5位
		-73kg級	上青木	吉村 颯太(3年)	3回戦敗退
	女子	団体	西	工藤 笑心(3年) 原 波音(3年)	5位
				佐野 明日香(2年) 井田 実来(2年)	
		-44kg級	芝西	廣瀬 桃(2年)	5位
		-57kg級	西	佐野 明日香(2年)	準優勝
		-63kg級	西	工藤 笑心(3年)	優勝
-70kg級	西	原 波音(3年)	欠場		
陸上	男子	3000m	芝東	小笠原 優諭(3年)	予選1組12着
		1500m	安行	高澤 侑世(3年)	予選1組16着
	女子	800m	戸塚	富田 紗帆(3年)	予選1組7着
		800m	幸並	岡田 透桜子(3年)	13位
水泳	男子	50m 自由形	南	坂場 亮大(3年)	34位
		1500m 自由形	戸塚西	丹野 義大(2年)	21位
	女子	200m 自由形	戸塚西	西野 沙耶(3年)	9位
		400m 自由形	戸塚西	西野 沙耶(3年)	3位
空手	男子	団体形	青木	木部 讃之助(3年) 榎本 嵩大(3年)	優勝
				平田 駿(3年) 増子 拓磨(3年)	
				佐藤 颯梧(2年)	
		岸川	島村 琥珀(3年) 島村 朱理(2年)	2回戦敗退	
			前田 龍之介(2年) 藤井 悠大(1年)		
			本由 彰久(1年)		
	団体組手	岸川	吉澤 輝空(3年) 島村 琥珀(3位)	3位	
前田 龍之介(2年) 石田 竜雅(1年)					
犬塚 蓮(1位)					

【埼玉県教職員 MOTTO（モットー） ロゴマーク】

未来を創る、こどもたち。

未来を育てる、わたしたち。

～ 未来への責任～

1 埼玉県教職員 MOTTO とは

「埼玉県教職員 MOTTO（モットー） 未来を創る、こどもたち。未来を育てる、わたしたち。～未来への責任～」は、埼玉県教育員会が教職員の仕事に関する使命や誇りを意識し続けることができるようなキャッチフレーズを教職員から募集の上、令和3年2月に策定したものです。

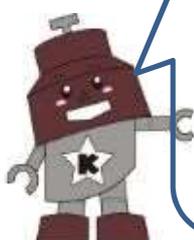
2 MOTTO 策定の背景

新型コロナウイルス感染症の世界的流行の中で、学校とは何か、授業とは何か、教職員の仕事の意義は何かなど、学校教育に対して本質的なことが問われています。

先行き不透明な中で、それでも確かなことは、未来を担う子供たちの教育に携わる私たちの仕事は、大変尊いものであるということです。そして、このような自分の仕事に対して感じる「誇り」は、私たちにより良い仕事への意欲と教職員としての使命感を持ち続けるモチベーションを与えてくれます。

私たち教職員は、子供たちの成長に関わり、その人生に大きな影響を与えます。これからの未来を創る子供たちが、自分の可能性を十分に発揮し、社会で活躍ができるよう、その成長を支え、後押しすることが、教職員の崇高な使命です。

一方で、子供たちが成長する姿こそが、教職員のやりがいや喜びとなっております。このような教職員の使命、あるべき姿、やりがいや喜びを再認識し、子供たちの健やかな成長を支えていくことが求められています。



埼玉県教職員 MOTTO
とあわせて、川口市
教育大綱のもと、
「川口の宝」である
子供たちの学びを
支えていきます。

川口市教育大綱（令和3年度～令和7年度）

一人ひとりが輝く、しなやかさとたくましさ
をそなえた人材を育てる川口の教育